

授業改善アンケート 結果集計表

2022年度前期

分類名 大学全体

履修者数 38760名

回答者数 16020名

回答率 41.3%

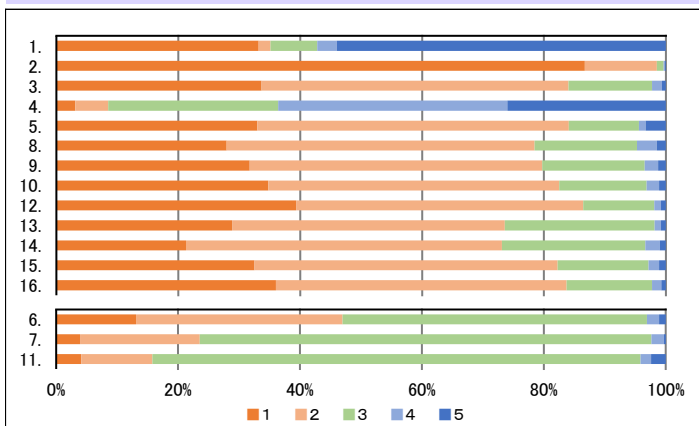
項目別回答分布(Q17は複数回答可)

設問 (平均点の点数は①=5点、②=4点、③=3点、④=2点、⑤=1点)		大学平均	平均(前回)	平均(今回)	1	2	3	4	5	無効
1.	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。 ① 授業に興味があったから ② 教員に興味があったから ③ 空き時間があつたら ④ 単位が取りやすいから ⑤ 必修科目だから	--	--	--	5319	311	1224	517	8649	0
2.	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ① ほとんど出席した ② 3分の2程度出席した ③ 半分程度出席した ④ 3分の1程度出席した ⑤ ほとんど出席しなかった	4.85	4.91	4.85	13887	1894	179	31	29	0
3.	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.15	4.19	4.15	5392	8070	2196	256	106	0
4.	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ① 3時間以上 ② 2時間 ③ 1時間 ④ 30分以下 ⑤ 全くしてない	2.22	2.29	2.22	499	861	4470	6023	4167	0
5.	この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ 講義内容を読まなかった	--	--	--	5286	8181	1845	175	533	0
6.	この授業の難易度はどうでしたか。 ① とても難しい ② やや難しい ③ 適切 ④ やや易しい ⑤ とても易しい	--	--	--	2096	5431	7996	323	174	0
7.	この授業の進行速度は適切でしたか。 ① 速すぎた ② やや速かった ③ 適切 ④ やや遅かった ⑤ 遅すぎた	--	--	--	631	3145	11867	331	46	0
8.	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.00	3.98	4.00	4471	8094	2695	522	238	0
9.	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.07	4.05	4.07	5078	7690	2691	358	203	0
10.	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.13	4.08	4.13	5569	7650	2295	324	182	0
11.	各回の提出課題の量はどうでしたか。 ① とても多かった ② やや多かった ③ 適切 ④ やや少なかった ⑤ とても少なかった	--	--	--	663	1863	12832	275	387	0
12.	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.23	4.21	4.23	6301	7546	1869	176	128	0
13.	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.00	3.98	4.00	4619	7170	3937	165	129	0
14.	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.90	3.89	3.90	3404	8303	3768	384	161	0
15.	この授業の内容は興味深いものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.11	4.11	4.11	5204	7966	2389	282	179	0
16.	この授業の総合評価を5段階で評価してください。 ① とてもよい ② よい ③ どちらともいえない ④ 悪い ⑤ とても悪い	4.17	4.14	4.17	5771	7639	2242	245	123	0
17.	この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。 ① 新しい知識や技能が身に付いた ② 新しいもの見方が身に付いた ③ 関連分野をさらに学びたくなった ④ 問題に対する発見能力や解決能力が身に付いた ⑤ コミュニケーション能力が向上した	--	--	--	12446	7133	4773	3174	1936	536
18.	(担当教員独自設問)	--	--	--	318	305	335	51	30	14981
19.	(担当教員独自設問)	--	--	--	255	233	251	61	44	15176
20.	(担当教員独自設問)	--	--	--	154	96	128	46	41	15555

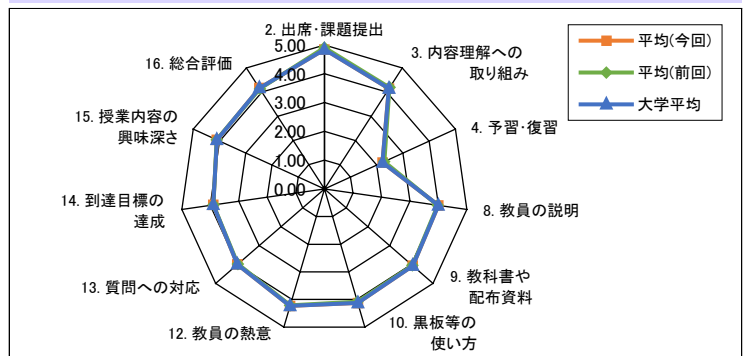
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.28	5450	6626	1201	130	55	0
3. 消極参加(4・5)	3.28	47	112	132	36	35	0
14. 達成度高(1・2)	4.38	5207	5857	573	56	14	0
14. 達成度低(4・5)	3.08	50	170	175	75	75	0

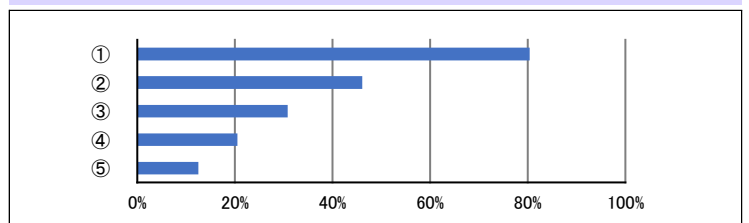
100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



レーダーチャート



Q17. 回答割合(有効回答のみ集計)



授業改善アンケート 結果集計表

2022年度後期

分類名 大学全体

履修者数 33281名

回答者数 15878名

回答率 47.7%

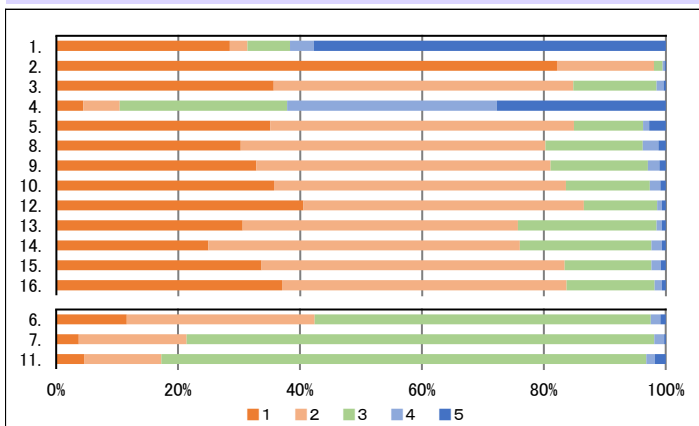
項目別回答分布(Q17は複数回答可)

設問 (平均点の点数は①=5点、②=4点、③=3点、④=2点、⑤=1点)		大学平均	平均(前回)	平均(今回)	1	2	3	4	5	無効
1.	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。 ① 授業に興味があったから ② 教員に興味があったから ③ 空き時間があつたら ④ 単位が取りやすいから ⑤ 必修科目だから	--	--	--	4522	452	1111	617	9176	0
2.	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ① ほとんど出席した ② 3分の2程度出席した ③ 半分程度出席した ④ 3分の1程度出席した ⑤ ほとんど出席しなかった	4.79	4.85	4.79	13037	2530	224	49	38	0
3.	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.19	4.14	4.19	5663	7802	2170	181	62	0
4.	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ① 3時間以上 ② 2時間 ③ 1時間 ④ 30分以下 ⑤ 全くしていません	2.25	2.25	2.25	703	949	4361	5458	4407	0
5.	この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ 講義内容を読まなかった	--	--	--	5569	7911	1805	158	435	0
6.	この授業の難易度はどうでしたか。 ① とても難しい ② やや難しい ③ 適切 ④ やや易しい ⑤ とても易しい	--	--	--	1843	4893	8752	252	138	0
7.	この授業の進行速度は適切でしたか。 ① 速すぎた ② やや速かった ③ 適切 ④ やや遅かった ⑤ 遅すぎた	--	--	--	588	2812	12180	263	35	0
8.	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.05	3.98	4.05	4804	7934	2533	410	197	0
9.	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.10	4.06	4.10	5214	7658	2533	304	169	0
10.	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.16	4.10	4.16	5672	7601	2184	274	147	0
11.	各回の提出課題の量はどのくらいでしたか。 ① とても多かった ② やや多かった ③ 適切 ④ やや少なかった ⑤ とても少なかった	--	--	--	738	2000	12633	228	279	0
12.	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.25	4.19	4.25	6440	7301	1906	132	99	0
13.	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.04	3.96	4.04	4850	7176	3604	136	112	0
14.	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.98	3.89	3.98	3960	8117	3419	276	106	0
15.	この授業の内容は興味深いものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.14	4.10	4.14	5343	7895	2261	244	135	0
16.	この授業の総合評価を5段階で評価してください。 ① とてもよい ② よい ③ どちらともいえない ④ 悪い ⑤ とても悪い	4.18	4.14	4.18	5874	7415	2298	186	105	0
17.	この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。 ① 新しい知識や技能が身に付いた ② 新しいもの見方が身に付いた ③ 関連分野をさらに学びたくなった ④ 問題に対する発見能力や解決能力が身に付いた ⑤ コミュニケーション能力が向上した	--	--	--	12244	7161	4901	3321	1976	630
18.	(担当教員独自設問)	--	--	--	369	303	211	56	40	14899
19.	(担当教員独自設問)	--	--	--	314	247	161	38	28	15090
20.	(担当教員独自設問)	--	--	--	156	207	225	16	15	15259

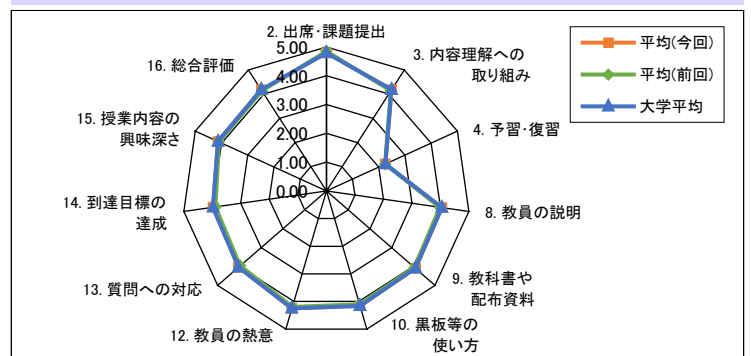
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.29	5594	6409	1302	107	53	0
3. 消極参加(4・5)	3.20	27	77	86	24	29	0
14. 達成度高(1・2)	4.39	5442	5948	625	49	13	0
14. 達成度低(4・5)	3.04	43	113	109	49	68	0

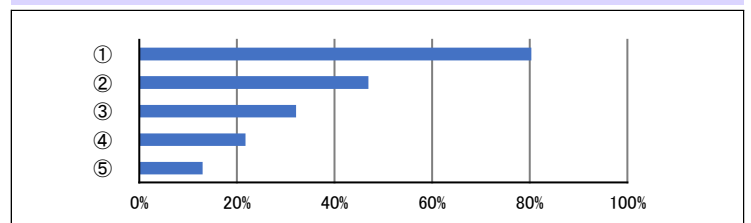
100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



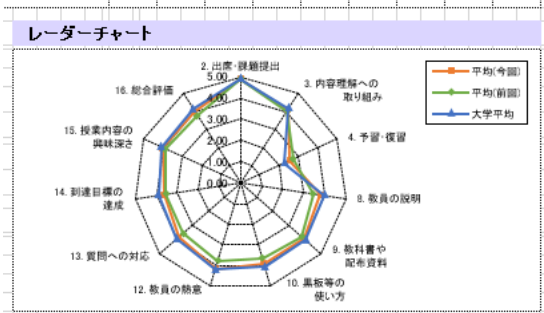
レーダーチャート



Q17. 回答割合(有効回答のみ集計)



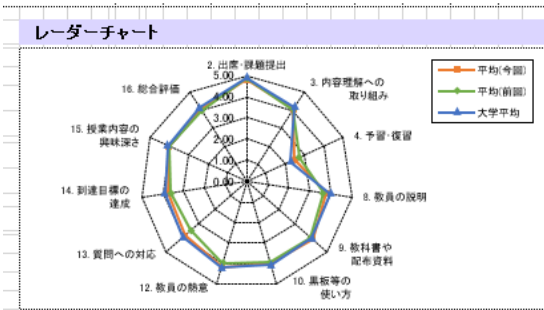
◆ 2021 年度前期授業改善アンケート
【千住】



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.11	116	164	55	8	2	0
3. 消極参加(4・5)	3.07	0	8	2	3	2	0
14. 達成度高(1・2)	4.31	104	127	22	1	0	0
14. 達成度低(4・5)	3.20	4	14	12	6	4	0

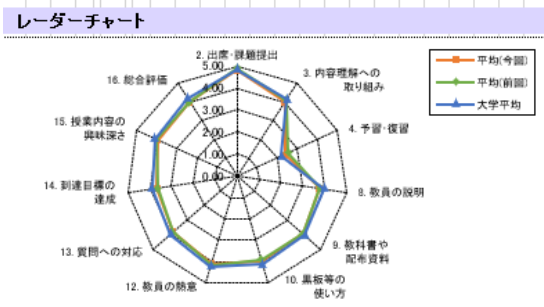
【東京西】



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.13	44	117	13	4	0	0
3. 消極参加(4・5)	3.33	0	2	0	1	0	0
14. 達成度高(1・2)	4.28	44	93	3	1	0	0
14. 達成度低(4・5)	3.00	0	4	4	2	1	0

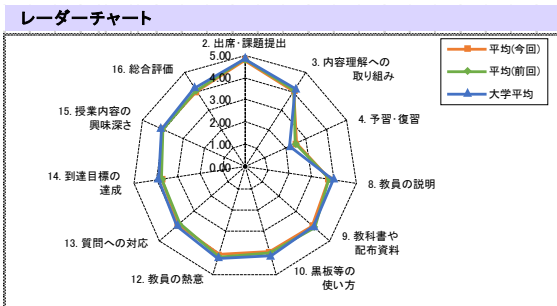
◆ 2022 年度前期授業アンケート
【千住】有効回答率 2021 年度 29.9%⇒2022 年度 43.0%



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.12	157	260	67	11	3	0
3. 消極参加(4・5)	3.46	3	9	10	0	2	0
14. 達成度高(1・2)	4.29	147	215	26	3	1	0
14. 達成度低(4・5)	3.27	4	13	18	2	4	0

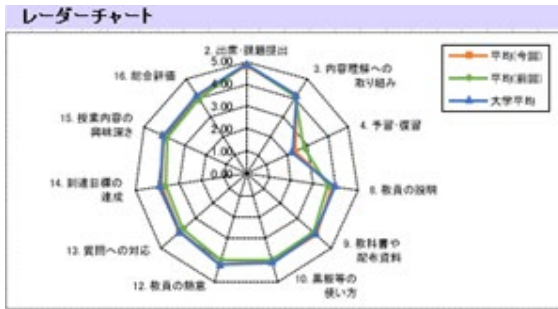
【東京西】有効回答率 2021 年度 43.9%⇒2022 年度 53.4%



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.12	49	74	20	4	1	0
3. 消極参加(4・5)	2.50	0	1	1	1	1	0
14. 達成度高(1・2)	4.26	43	60	9	2	0	0
14. 達成度低(4・5)	2.90	0	5	1	2	2	0

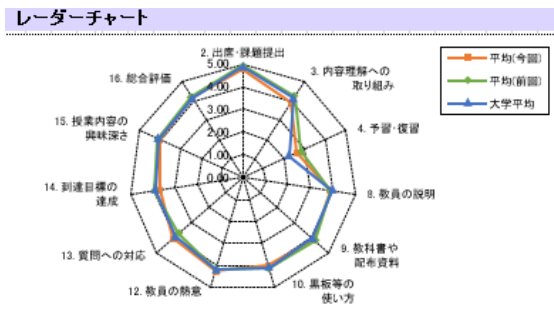
◆ 2021 年度後期授業アンケート
【千住】



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3.積極参加(1・2)	4.15	117	147	43	7	4	0
3.消極参加(4・5)	3.25	0	5	1	1	1	0
14.達成度高(1・2)	4.36	110	123	17	1	0	0
14.達成度低(4・5)	2.62	1	7	4	9	5	0

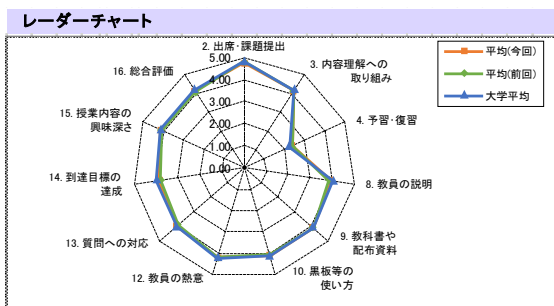
【東京西】



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3.積極参加(1・2)	4.29	29	49	5	0	0	0
3.消極参加(4・5)	3.63	1	4	2	1	0	0
14.達成度高(1・2)	4.39	29	41	1	0	0	0
14.達成度低(4・5)	3.40	0	5	4	1	0	0

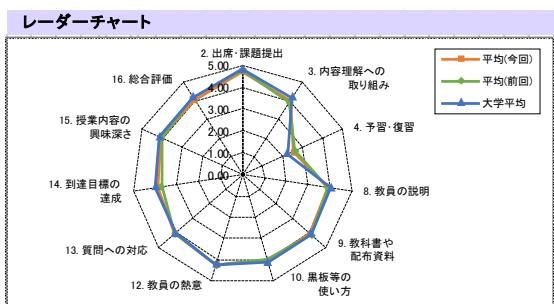
◆ 2022 年度後期授業アンケート
【千住】有効回答率 2021 年度 33.3%⇒2022 年度 45.8%



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3.積極参加(1・2)	4.23	177	229	55	5	1	0
3.消極参加(4・5)	3.45	1	6	2	1	1	0
14.達成度高(1・2)	4.39	171	202	16	1	0	0
14.達成度低(4・5)	3.53	3	7	2	1	2	0

【東京西】有効回答率 2021 年度 41.0%⇒2022 年度 55.0%



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3.積極参加(1・2)	4.15	60	83	26	1	2	0
3.消極参加(4・5)	3.83	0	5	1	0	0	0
14.達成度高(1・2)	4.22	58	77	16	1	2	0
14.達成度低(4・5)	3.71	0	5	2	0	0	0

【背景】コロナ禍から本格的に対面授業に移行し、一年経過した2021年度の結果を振り返り比較し2022年度の考察を行う。

・「到達目標の達成」、「授業の興味深さ」、「総合評価」ほかすべての項目から判断すると例年レベルの授業の質を維持できたと考える。2021年度のアンケート結果により2022年度はアンケート結果の信頼度を高めることを目的として回答率の向上を学科内共通認識として取り組んだ。方法としてはQRコードの教員へのメール配布と授業内にアンケート回答の時間を設け、学生に対し積極的にアンケートに取り組むよう促した。結果、回答率は千佳前期 29.9%⇒**43.0%**、後期 33.3%⇒**45.8%**、東京西前期 43.9%⇒53.4%、後期 41.0%⇒**55.0%**と前年度より上昇し一定の効果が認められた。本結果から2021年度よりアンケート結果の精度が向上したと仮定し考察を行った。

【2022年度アンケート結果より好ましかった考察】

・アンケート設問項目にある「教員説明」「配布資料の適切性」「熱意」「質問対応」など教員側の授業運用に関しては大学平均と比較し前期・後期ともにほぼ同等の結果であり授業の質は一定の水準にて確保されていたと考える。この傾向は一昨年の2020年度の結果から変わっておらず、コロナ禍における緊急時対応による授業形態と対面形式の授業の質は変わらなかったと考えられる。これは各教員がコロナ禍においてもZOOMや動画配信などを積極的に取り入れた成果が対面授業に移行した2022年度のアンケート結果によって示されたものと考察する。

【2022年度アンケート結果より課題とされる考察】

・受講人数によって回答率の数値が大幅に増減するが科目によっては回答率が数%であることは以前からの課題である。

・レーダーチャートを見ると予習・復習にかかる時間が常に低いことが本学の特徴であるが、本学科も大学平均と同等であった。具体的には予習・復習を教科ごとに3時間以上行うことを大学として求めているが、学生の多くが平均1時間未満の学修時間と回答している。授業理解度や課題提出のスコアが低くない結果から考えると、授業によって自習時間の配分を調整し学修に取り組んでいることが伺える。この傾向は教員側も認識しており授業内に理解が可能になるよう内容を工夫しているとの意見も聞かれた。

【総括】

・アンケート回収率の低い2021年度は、回答した学生は授業や教員指導に対し、コンプライアンスの高い学生が多いことを予想し、得られる結果は良い方にバイアスがかかっていることを想定していた。2022年度は10%ほどアンケートの回収率が向上しているため、多少、信頼度が向上したと考える。一般的にはアンケートの回収率が上がると結果は悪い方に傾く傾向にあると予想されるが同等の水準を維持できていることは一定の評価ができると考える。しかしながら未だ半分近くの学生が未回答である。真の授業評価を抽出するためには回答していない学生の意見に本質的な部分が隠れているかもしれないことも念頭に、今後も慎重に注視していくことが重要である。回収率を上げるための方策として2023年度も

引き続き授業内アンケートにて回答を促す。

・2023 年度の分析結果が学生の授業に対する真の評価であることに近づけるためには未回答の学生の意見を抽出することが必須である。従来までの口頭周知やメールアナウンス、オンライン形式、授業内アンケートで行うことに限界があるのか 2023 年度も引き続き検討する必要があると言える。また、学生の本音が反映されるよう信頼関係の構築への努力も必要である。

・学生の学力向上を目的として、2023 年度後期より、リーディングスキルテストと改善プログラムを導入し学修支援を行う予定である。

2022 年度授業改善アンケート結果の総括と改善点について

2021 年度と 2022 年度における自然環境学科全体のアンケート結果の比較を行った。東京西キャンパスにおいて 2022 年度前期は説明の仕方，熱意，興味で 2021 年度よりも高く，総合評価も 4.30 と高い評価であった（表 1，3）。後期は学生による授業内容を理解するための取り組みや興味，教員による説明の仕方増加が見られたが，総合評価では変化が見られなかった（表 1，3）。これは，2021 年度後期の総合評価が 4.28 と高評価であったためであると考えられる。2022 年度の東京西キャンパスの総合評価は前期，後期とも 4.25 以上と高評価で，現在の状況を維持していきたい。

2022 年度前期の千住キャンパスではいずれの項目においても 2021 年度とほぼ同じ評価であった（表 2）。総合評価は東京西キャンパスより低い評価で，2021 年度とほぼ同じであった（表 3）。後期はすべての項目で，2021 年度よりも高い値で，総合評価も高評価であった（表 2，3）。このことから，千住キャンパスでは年度が変わる前期の科目で，より極め細かな対応を行う必要があるのではないかと思われる。

表 1. 東京西キャンパス

	前期		後期	
	2021	2022	2021	2022
予習・復習 *	2.39	2.35	2.28	2.32
内容理解への取り組み	4.10	4.07	3.92	4.09
説明の仕方	4.01	4.14	4.06	4.13
熱意	4.20	4.40	4.28	4.30
興味	4.13	4.27	4.17	4.25

* : 3.0=平均 1 時間

表 2. 千住キャンパス

	前期		後期	
	2021	2022	2021	2022
予習・復習 *	2.20	2.13	2.15	2.23
内容理解への取り組み	4.05	4.01	3.91	4.07
説明の仕方	4.00	3.99	3.99	4.10
熱意	4.18	4.26	4.19	4.27
興味	4.11	4.13	4.12	4.23

* : 3.0=平均 1 時間

表 3. 総合評価

	東京西キャンパス		千住キャンパス	
	2021	2022	2021	2022
前期	4.13	4.30	4.15	4.16
後期	4.28	4.25	4.18	4.25

2022 年度授業改善アンケート振り返り

【総括】

授業によってアンケートの回答率に大きく差が存在しているため、回答率が高い教員のアンケート回収の方法を教員間で共有することで回答率の向上を目指す。

両キャンパスとも前期・後期ともに前回より多くのアンケート項目で低下傾向であった。特に東京西キャンパスの後期は昨年度より低い数字が多いように見える。一方で大学平均より高い項目も多く存在しているため、注視しておきたい。現在思いつく原因としては、コロナ渦が落ち着いたことにより昨年(2021 年度)と比較して通学する機会が増え、多くが対面授業になり、環境の変化に対応出来なかったことがあげられるかもしれない。

両キャンパスとも前期と比較して後期で高い点数が高い傾向が見られる。入学や進級後の戸惑いから学修経験が進み、環境が変化することで、授業への取り組み方も慣れていくのではないかと予想できる。出席・課題提出と予習復習は両キャンパスとも低い傾向にあるため、結果を踏まえて分析し改善策を考える必要がある。

千住キャンパスでは「質問への対応」や「到達目標」が毎回低い傾向があるため今後改善するために策が必要である。東京西キャンパスでは「授業への興味」と「総合評価」が他の項目と比較して高い点数を得ているため、教員の専門的な知識や経験を活かした魅力的な授業が実施されているのではないかと想像出来る。

【今後に向けての改善策】

学生の学習に取り組む姿勢の改善や、学習に対する動機づけを向上させる必要がある。その方法の一つとして、引き続き、学生の将来像や職業を明確に意識させる、千住キャンパスにおいては国家資格試験の受験を意識させることで、未来志向を促すことによって現在の学習の意欲を向上させるなど、様々な方法で工夫していくことが必要であると考えます。

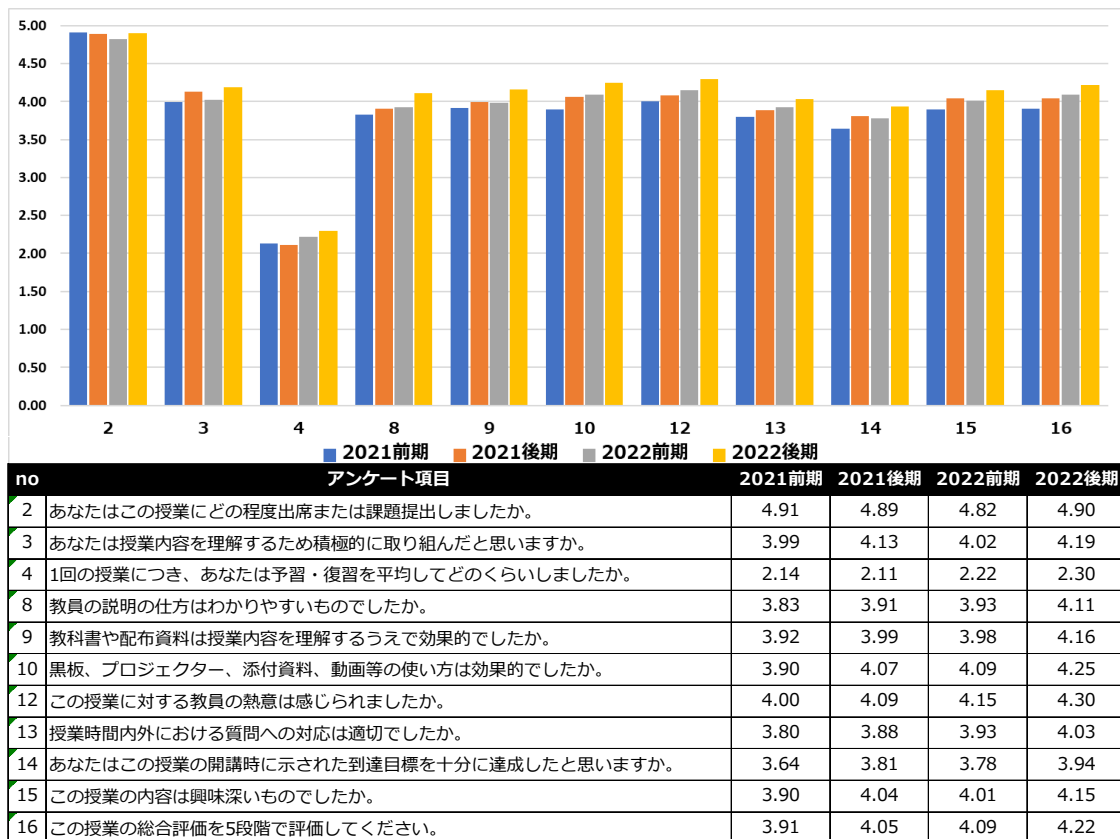
アンケート項目の結果より「到達目標」が学生にとってイメージしにくい可能性があるため、各教科の到達目標をよりわかりやすく掲示することや授業を通して学生に伝える必要がある。昨年度より導入された Webclass の機能に教員および学生が慣れてきたので、引き続き積極的に活用することで継続的な学習や復習の機会を増やしていく。また、Webclass は授業だけでなく千住キャンパスの愛玩動物看護師の国家試験対策にも応用する予定である。千住キャンパスでは、4 年次の国家試験に向けて教員が国家試験を意識した授業を低学年から実施している。国家試験のみにフォーカスするのではなく、授業と国家試験が繋げるような授業を行うことで学生の習熟度や学習意欲に向上に貢献を目指していく。

2022年度授業改善アンケートの学科振り返り

1. はじめに

昨年度は、①対面授業を実施していた2019年度、②非対面授業が中心の2020年度、③教室の使用人数制限や感染対策を講ずることによって一年間対面授業を継続した2021年度を総括しました。その結果、対面授業継続と授業形態改善の必要性が明らかになりました。2022年度総括では、対面授業が再開されてからの動向を分析するために2021年度と2022年度の結果を比較分析し、報告させていただきます。

2. 2021-2022年度 理学療法学科 授業改善アンケート結果と分析(アンケート項目はnoで表記)



①前期後期平均値の変化が0.1ポイント未満の項目「2,3」について

項目2,3には変化が見られなかった。両項目とも2021年度時点で前後期平均4.0ポイントを超える高値のため、変化が見られなかったものと考えられます。授業への出席や積極的な参加は、学習指導の重要な項目であるため、今後も高値となるように学生指導を継続する必要性を学科で再確認しました。

②前期後期平均値に0.1ポイント以上の変化があった項目「4,8,9,10,12,13,14,15,16」

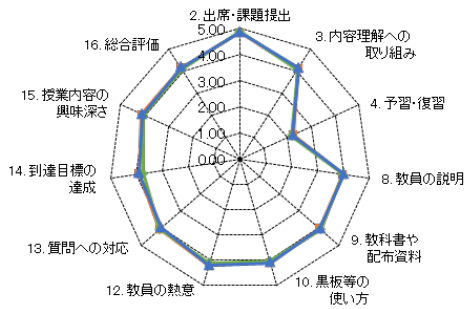
項目4-16は前後期平均で0.1ポイント以上の向上が見られました。理学療法学科では80名近い学生に対して実技授業やグループワークを複数科目で行っています。昨年度は教室の使用人数制限や感染対策を遵守しながら対面授業を1年間通して継続することに取り組みました。その結果、対面授業を継続することはできましたが、2教室同時に授業進行する、フェイスシールドを着用してグループワークを行うなど、学生には不便さを感じさせる授業構成となってしまった部分がありました。2022年度はその反省点を活かし、少人数制授業を組むなど、時間割や授業構成を工夫しました。その結果、講義や実技指導内容の理解度が向上し、4-16の9項目で向上が認められたものと考えます。

3. 今後に向けた理学療法学科の改善策

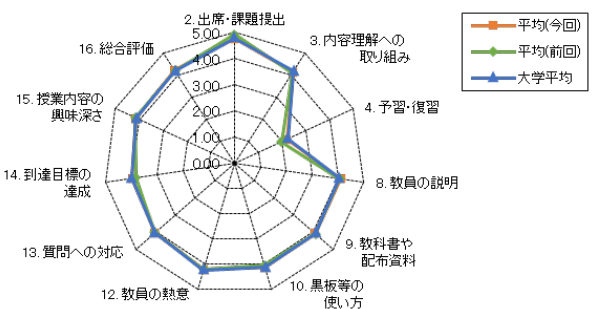
2022年度は授業形態・環境の改善に取り組み、一定の成果が得られたと思います。今後も授業改善アンケートに寄せられた学生の声に真摯に向き合うことで、よりよい授業が提供できるように学科として取り組んでまいります。

2022 年度授業改善アンケートの学科振り返り

【総括】



2022年度前期



2022年度後期

2021 年度と比較して、2022 年度のアンケート結果は、多くの項目でわずかに改善が見られた。回答率は前期 40.2%、後期 54.1%だった。

具体的には、「授業内容を理解するための積極的な取り組み」、「予習・復習の時間」、「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方が効果的だったか」、「教員の熱意」、「到達目標の達成」、「授業の総合評価」の設問で、前期・後期ともに改善が見られた。

2022 年度の 1 つ目の課題であった回答率の低さは、授業時間内に QR コードを提示し、可能な限り教室で回答してもらう取り組みをした結果、特に後期は 2021 年度の 33.5% から 54.1% へ大幅に上昇した。しかし、それでも回答率は 6 割に満たないことから、引き続き改善を目指す必要がある。

2 つ目の課題であった予習・復習の時間の少なさについては、①予習・復習の内容や方法について提示する。②専門教室の貸出手続きについて今まで以上に周知し、空き時間を有効に活用することで予習復習の時間を確保することを促す。という 2 つの取り組みを続けた結果、前後期ともに改善が見られ、特に後期は、予習・復習を 1 時間以上しているという回答が 2021 年度の 26.9% から 37.7% に上昇し、改善しつつあると言える。一方で全くしていないという回答も 29.5% 見られたことは今後の課題である。

3 つ目の課題であった到達目標の達成については、①初回の授業や毎回の講義の中で明確化する。②授業内容の理解度を確認しながら、必要な学生には補習をすることで、すべての学生が到達目標を達成することを目指す。という 2 つの取り組みを行い、到達目標を達成したと思うという回答の割合が 2021 年度の 64.2% から 74.7% に上昇した。しかし「どちらとも言えない」という回答は依然として多く、難易度についての設問で「とても難しい」(9.3%)、進行速度についての設問で「速すぎた」(3.3%) という回答もあることから、今後も継続した取り組みが必要である。

【改善策】**■回答率が低かったことについて**

→すべての科目で授業中に QR コードを提示し、可能な限り教室で回答してもらう取り組みを継続する。

■予習・復習の平均時間が少なかったことについて

→これまでの取り組みにより、効果が出始めていることから、同様の取り組みを継続する。具体的には、授業時間外の学習として何をすべきかわからない学生のために、予習・復習については自主性に任せるだけでなく、こういうことは調べた方がよい、覚えておいた方がよい等、予習・復習の内容や方法についても提示する。作業療法学科教員室には、専門教室や検査器具などの貸し出し申請用紙（ファイル）があり、申し出があれば個人でもグループでも借りることができることを、引き続き周知し、空き時間を有効に活用することで予習復習の時間を確保することを促す。

■到達目標を十分に達成していないと感じる学生がいたことについて

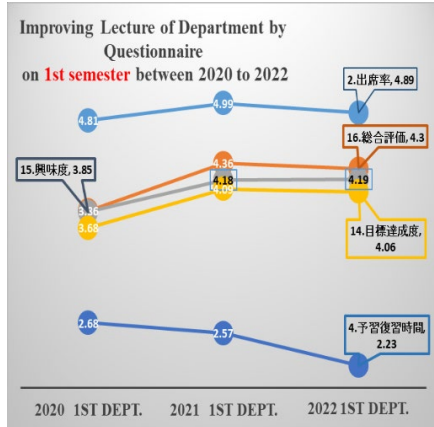
→引き続き、初回の授業や毎回の講義の中で到達目標を明確化する取り組みを続ける。また、授業の難易度が「とても難しい」、授業の進行速度が「速すぎた」と回答した学生も一部にいることから、授業内容の理解度を確認しながら、必要な学生には補習をすることで、すべての学生が到達目標を達成することを目指す。

2022年 <授業アンケートによる省察>

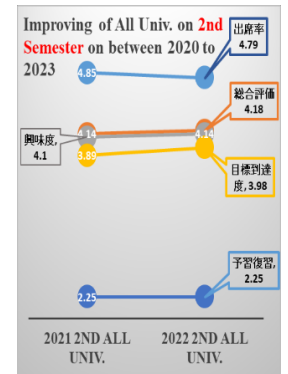
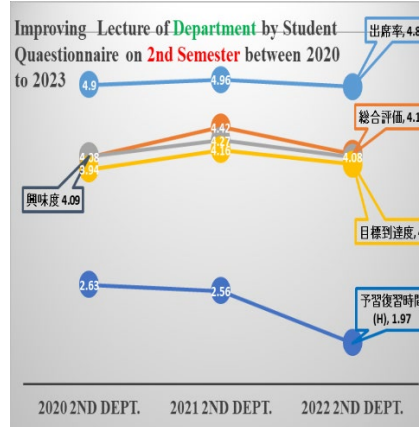
2022年前期および2022年後期

<授業アンケートのなかで学習モチベーションを代表する5項目による分析>

1). 2022年前期結果 (2020, 2021 前期との比較)



2). 2022年後期結果 (2020, 2021 後期との比較)



クロス集計 (2021年前期→2022年前期)・・・V.S・・・(2021年後期→2022年後期)

クロス集計させる項目	平均(今回)
3. 積極参加(1・2)	4.34
3. 消極参加(4・5)	3.20
14. 達成度高(1・2)	4.42
14. 達成度低(4・5)	3.00

クロス集計させる項目	平均(今回)
3. 積極参加(1・2)	4.38
3. 消極参加(4・5)	3.00
14. 達成度高(1・2)	4.43
14. 達成度低(4・5)	1.00

クロス集計させる項目	平均(今回)
3. 積極参加(1・2)	4.53
3. 消極参加(4・5)	3.00
14. 達成度高(1・2)	4.56
14. 達成度低(4・5)	5.00

クロス集計させる項目	平均(今回)
3. 積極参加(1・2)	4.22
3. 消極参加(4・5)	4.00
14. 達成度高(1・2)	4.22
14. 達成度低(4・5)	3.00

結果

1) 2022年度前期の特徴 (2020年→2021年→2022年度前期と比較)・・・大学平均 (2021年→2022年)

- ①出席率 (レポート含) 4.81→4.99→4.89 : 0.10 低下・・・大学平均 4.91→4.85 (学科は大学平均より+0.04)
 - ②予習復習時間(h) 2.68→2.57→2.23 : **0.34h : 低下**・・・大学平均 2.29→2.22 (学科は大学平均より+0.14)
 - ③興味度 : 3.85→4.18→4.19 : 0.01 上昇・・・大学平均 4.11→4.12 (学科は大学平均より+0.07)
 - ④目標達成度 3.68→4.09→4.06 : **0.03 低下**・・・大学平均 3.89→3.90 (学科は大学平均より+0.16)
 - ⑤総合評価 3.86→4.16→4.30 : 0.24 上昇・・・大学平均 4.14→4.17 (学科は大学平均より+0.13)
- ・クロス集計 授業参加 (4.32/3.20) → (4.38/3.00) 目標達成度 (4.42/3.00) → (4.43/1.00)

2) 2022年後期の特徴 (2020年→2021年→2022年度後期と比較)

- ①出席率 (レポート含) 4.90→4.96→4.88 : 0.08 低下・・・大学平均 4.85→4.79 (学科は大学平均より+0.09)
 - ②予習復習時間(h) 2.63→2.56→1.97 : **0.59h : 低下度大**・・・大学平均 2.25→2.25 (学科は大学平均より-0.28)
 - ③興味度 4.09→4.27→4.11 : 0.16 低下・・・大学平均 4.10→4.14 (学科は大学平均より-0.03)
 - ④目標達成度 3.94→4.16→4.00 : **0.16 低下**・・・大学平均 3.89→3.98 (学科は大学平均より+0.02)
 - ⑤総合評価 4.08→4.22→4.17 : 0.05 低下・・・大学平均 4.14→4.18 (学科は大学平均より-0.01)
- ・クロス集計 授業参加 (4.53/3.00) → (4.22/4.00) 目標達成度 (4.56/5.00) → (4.22/3.00)

省察

1) 2022年前期の授業アンケートによる省察

- すべての項目で大学全体平均値よりも高値 特に・・・予習復習時間 (+0.14 : %means=6.3%) : しかし昨年度より低下
 ・・・・目標達成度 (+0.16 : %means=3.94%) : 同上
- しかし、予習復習時間は前々年度、前年度より大幅に低い・・・年次ごとに次第に低くなる
- 出席率、興味度、目標達成度は誤差範囲の変化 → 「総合評価」としての2年連続の上昇評価 : 前年度より 0.24 上昇
 (%means=5.60%) : では、他に要因があるのか?
 ・・・・実は、他の上昇要因 (2021→2022年) : 教員の熱意 (+0.21)、質問への対応 (+0.47)、教員の説明 (+0.33)、配布資料 (+0.28)、板書等 (+0.38)・・・平均 (+0.33) : 教員の努力による「学生総合評価」の上昇が読み取れる。
- クロス集計による : 2つの項目へのアプローチ : 2021年→2022年の変化
 - 授業への参加 (積極性) : 「積極参加」は微増 (4.34→4.38 : +0.04)
 「消極参加」の低下 (3.20→3.00)・・・授業への参加が消極的な値が低下・・・(-0.2)・・・良い傾向
 - 目標達成度 : 「達成度高い」は微増 (4.42→4.43 : +0.01)
 「達成度低い」は大きく低下 (3.00→1.00)・・・授業による目標達成度が低い値が大きく低下・・・(-2.00)
 目標達成度の平均値比較では解明できなかったことが解明・・・低い目標達成度の学生が減少した

2) 2022年度後期の授業アンケートによる省察

- すべての項目で前年度より値が低下・・・大学全体よりも値が低いものがある : 予習復習時間 (前年より 0.59h 低下)
 ・・・・総合評価 (-0.05 : %means=6.74%) 目標達成度 (-0.16 : %means=6.73%)
- 予習復習時間以外は前年度より値が高い (前期に比して)・・・特に総合評価 : 4.42
- 興味度 (4.11), 目標達成度 (4.00) は前々年度よりは高い値 : → 「総合評価」(4.17) 前々年度より高値を裏づける。
 ・・・・前年より上昇した項目 : なし・・・教員関係の値が低下 : 教員の熱意 (-0.16)、質問への対応 (-0.05)、教員の説明 (-0.06)、配布資料 (-0.11)、板書等 (-0.09)・・・平均 (-0.09) : 前々年度よりは高値
- クロス集計による : 2つの項目へのアプローチ :
 - 授業への参加 (積極性) : 「積極参加」は低下 (4.53→4.22 : -0.21)
 「消極参加」の低下 (3.00→2.00)・・・授業への参加が消極的な値が低下・・・(-0.2)・・・良い傾向
 - 目標達成度 : 「達成度高い」は微増 (4.56→4.22 : -0.34)
 「達成度低い」は大きく低下 (5.00→3.00)・・・授業による目標達成度が低い値が大きく低下・・・(-2.00)
 授業への積極参加する値が低下, 消極参加低下・・・悪い意味で差がなくなった {学習リーダーが不在}

以上により

結果

- 1) 2022年度前期の特徴・・・全学的平均値より高いが、昨年度より低下する値が出現（昨年度が対面解禁で最高値）
学習時間低下、興味、達成度低下・・・しかし、**総合値上昇：教員の工夫で学習モチベーション上昇**
- 2) 2022年度後期の特徴・・・全般的にすべての項目で（特に学習時間）低下傾向。教員項目でも低下傾向。
しかし、「授業への積極性」、「授業への達成度」の低値自覚者の低下による上昇の兆しある。

2022 年度 授業改善アンケート結果について

【総括】

■授業方法について

[良かった点]

- ・ アンケート全体の回収率が、前期 34.2%、後期 44.2%と昨年度よりは改善されたが、未だ低調な結果であった。この点を改善するために、対象科目における講義内の周知やアンケート実施など積極的にアンケートを実施しやすい環境を設定する。
- ・ 前期科目は全般的に昨年度より得点が微増し、なかでも「教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的」[3.93 (2021 年) →4.16 (2022 年)] など、授業教材の改善が見込まれた。
- ・ 「総合評価」とする満足度は、昨年度に引き続き、前期 4.19、後期 4.16 と高い水準が維持され、さらに実践的な授業を展開し、専門性を活かした学修機会を提供していく。

[改善点]

- ・ 後期科目は、全般的に昨年度より得点が微減し、「教員の説明の仕方はわかりやすいものか」[4.05 (2021 年) →3.96 (2022 年)]、「この授業に対する教員の熱意は感じられたか」[4.24 (2021 年) →4.18 (2022 年)] など、教員側の教育手法に改善が求められることが見受けられた。
- ・ 前期・後期科目ともに、「1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしたのか」について、30 分以下または全くしていないが半数以上を占めている。そのため、授業内・外における実技練習のサポートや学習の理解度に応じた提示できる課題学修など自己学習の機会も取り入れ、基礎科目から専門職教育の質を向上させる取り組みを検討していく。

■授業環境について

[良かった点]

- ・ 一昨年度、前年度より「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的」[3.93 (2021 年) →4.16 (2022 年)] との回答が得られ、大学水準よりも大幅に改善されている傾向があった。Web class へのデジタル資料を積極的に提供する機会が増えた点も効果があったものと考えられ、引き続き対応していく。

[改善点]

- ・ 「授業時間内外における質問への対応は適切か」については、前年度と比較して低水準の数値となっており [3.91 (2021 年) →3.99 (2022 年)]、質問の持てる工夫と質問に対する適切な指導の工夫として、引き続き、取り組んでいく。

■今後に向けた改善策

[科目に対する意見について]

- ・ 各教科とも授業内容をより理解しやすくするため、視覚教材や配布物など学習ツールの活用を今まで以上に進めていきます。
- ・ 学生は、専門知識の理解をすすめていくために、下記の自己学習の方法について、確認してほしい。
 - ①「理解不足の原因」のひとつとして「自己学習時間の不足」も一因となり、「授業の理解度」の不十分な学生が一部見受けられます。教科書や授業資料のみならず、大学の図書館などの学内施設を利用し、予習・復習など積極的な自己学習に取り組める環境を整えて下さい。
 - ②「理解不足の原因」を抱える多くの学生からは、「勉強の仕方がわからない」、「専門用語が難しい」という声が聞かれます。授業内容はわからないままにせず、助言教員や科目担当教員などに積極的に相談し、まずは、勉強の習慣や仕方を身に付けてください。
 - ③シラバスに記載されている「授業における到達目標」を確認した上で、興味がある分野には積極的に取り組んでください。特に、理解度の低い授業は放置せず、担当教員との関わりを持って、簡単なことでも構いませんので、相談する姿勢を身に付けてください。

[授業の進行について]

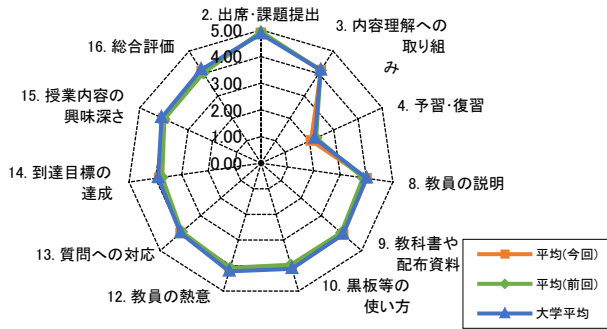
- ・ 各科目における授業の進行について、授業内の学修内容が理解されやすいように適切な板書やスライド、資料提示などに取り組んでいく。
- ・ また、必要に応じて、リフレクションシートなどの活用も適宜導入していく。
- ・ 学生は、自身の課題提出や授業外学修が円滑な授業進行に役立つため、下記の点について、確認してほしい。
 - ①課題レポートなどの提出物は、期限を厳守し指示された体裁に則り提出してください。
 - ②休み時間や授業の空き時間に実習室利用（授業で使用していない場合）を可能としているため、積極的に理学療法技術（実技）の練習に取り組んでください。
 - ③少しずつ学習面に対する相談する学生が増えてきましたが、質問や意見など、学科教員が随時受け付けていますので、遠慮せずに声を掛けて下さい。

以上

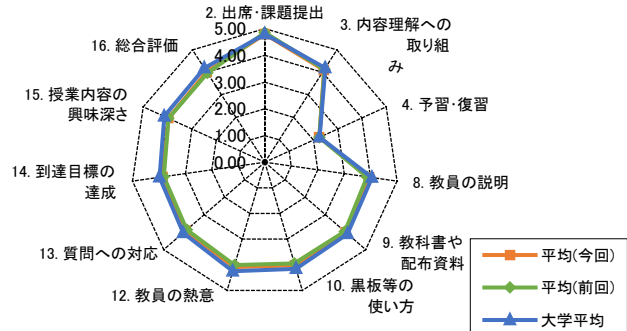
2022 年度授業改善アンケート結果に対する学科の振り返り

東京柔道整復学科

【2022 年度前期】



【2022 年度後期】



【総括】

2022 年度の授業改善アンケート結果は、前年度（2021 年）に比べて前・後期ともに「教員の説明の仕方」、「教科書や配布資料」、「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方」、「教員の熱意」、「質問への対応」、「到達目標の達成度」、「授業内容の興味深さ」、「授業の総合評価」などの 8 項目で高い値となった。一方、低い値となったのは、「授業への出席または課題提出」、「授業内容を理解するための積極的な取り組み」、「予習・復習の平均時間」などの 3 項目であった。

「教員の説明の仕方」、「教科書や配布資料」、「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方」は、前年度（2021 年）結果からの対策項目であり、学生の理解度を高めるように勉強の仕方や方法も含めた授業を行ったことが今回の結果につながったと考えられる。また、「授業内容の興味深さ」についても様々な分野から学生の興味を引く内容を授業に取り入れて行ったことなどで前年度より高い値になったと思われる。

前年度（2021 年）から低い値となった「予習・復習の平均時間」の回答をみると、「30 分以下」が最も多く、前期回答者 1940 名中 701 名、後期回答者 1997 名中 637 名であり、次に回答が多かった「全くしていない」が前期 1940 名中 635 名、後期 1997 名中 598 名であった（「全くしていない」は全体の約 30%）。この数値だけによる判断は難しいが、上位学年、特に 4 年生になると国家試験勉強も含めて予習・復習時間が増える傾向にあるため、下位学年の回答において「30 分以下」や「全くしてない」が多くみられると考えられる。授業時間以外の学習の必要性を通常の授業内においても説明し、実践させる必要がある。

【今後の改善について】

- 授業時間以外の学習の必要性を繰り返し説明し、学内施設（図書館や学科セミナー室）を利用した予習・復習の習慣づけを促していく。

- 授業への出席または課題提出について助言教員と情報共有を行いながら対応していく。
- 前年度に比べ改善がみられた項目は引き続き学生の理解度を高めるよう工夫をして授業を行うなど、さらに良い評価につながるように努めていく。

2022年度 授業改善アンケート結果のまとめ

○レーダーチャート

前期は53科目（回答率23.01%）、後期は26科目（回答率39.90%）に対して授業改善アンケートが実施された。レーダーチャート(図1、2)をみると、前期後期で大きな変化はなく、多くの項目で得点は大学平均と同等であり、予習・復習に関しては大学平均を上回った。

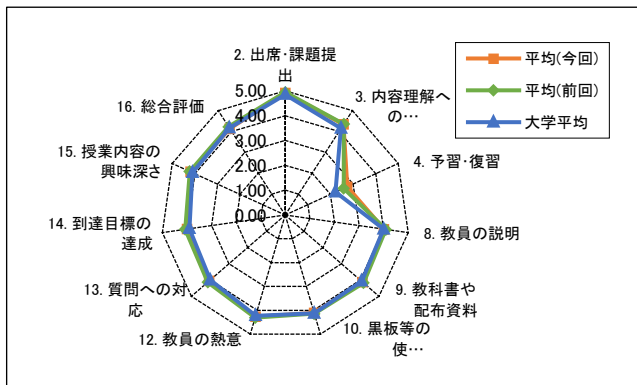


図1. 前期アンケート結果レーダーチャート

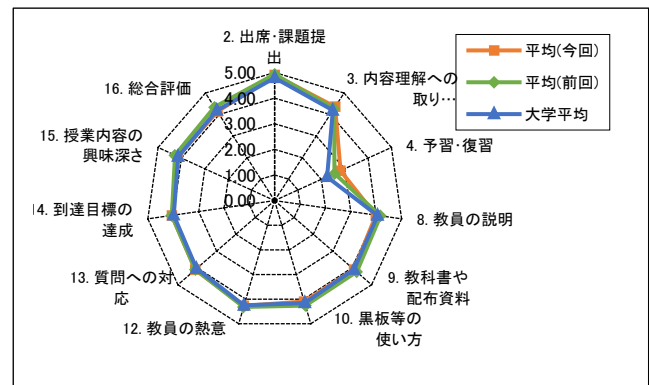


図2. 後期アンケート結果レーダーチャート

○自由回答

【肯定意見の例】

「例えが分かりやすかった。」

「授業に飽きさせない工夫がありとても面白かった」

「時間外の質問回答がすごく親切で分かりやすかった。分かるまで丁寧に説明してくれた」

「演習では自分たちで行った後に、分からない部分のアドバイスを頂く形だったので、自主的に取り組むことができた。」

「経験を交えて授業をしてくれた」

「文だけでなく図や表が多く使われていたので分かりやすかった。根拠や具体例を説明しながらの授業で良かった。」

「動画を活用してくださったので、実際の様子を見ることができて、とても理解しやすかった。」

「実際に患者さんが口にするものを試飲・試食できて楽しかったし、少しでも患者さんの気持ちを感じることができた。」

「様々な方の話を聞いたことが、めったにない機会であつたことと、自分の考えだけでなく友達の考えを聞いて新しい発見にもなった。」

「課題があり、はじめは大変だと感じていたが、課題を通して成長を感じられた。」

「初回の授業に比べ、こちらの要望を取り入れて授業を改善してくれた。」

「課題に対するコメントがとても丁寧で、一つひとつ修正することができた。授業内でよく出来ている人の内容が紹介され、どのように進めれば良いか理解しやすかった」

「授業ではイメージがわからないことも、演習を通して患者側に立って体験して感じるものがたくさんあった。」

など、上記以外にも多数の肯定意見がアンケートに記載されていた。

〔是正意見の例〕

「ただプリントに書いてあることを読み上げているだけなので、授業を聞く意味が感じられなかった。」

「レポートの期限が量と釣り合わない。課題を提示する時期が遅すぎる。」

「授業資料が欲しかった。資料がないと復習がしにくい。テスト対策が難しいため資料が欲しい。」

「課題について、授業で言ったこととメールで記載していることが違い、理解しにくかった。」

「教科書を買ったので活用して欲しい。」

「学生の課題内容が不足している部分“は？”など口の悪いコメントが多数見られた。教員が教えることを放棄していると思う。」

「課題の評価基準が担当教員によって異なっている。教員によって指導の手厚さに差がある。」

「先生の情報に偏りがあり、雑に授業をしている印象を受けた。」

「グループワークに全く協力しない学生がいたが、同じ成績をつけられることに納得できない。参加度が図れるような基準を設けてほしい」

「授業中の（他科目の）課題の禁止について、多くの学生が課題をやる状況は学生が悪いのではなく、課題を出す教員が問題であるので、教員間で課題の調整をして欲しい。」

などの是正意見がアンケートに記載されていた。

○授業改善アンケート結果からの考察

- ・教員も学生に評価されているという点を意識して、丁寧に授業・演習に取り組む必要がある
- ・教員の臨床経験に関する授業内容は、学生の興味や関心を高めるとともに、学生の理解も高まる
- ・知識・技術を教授する際に、学生がイメージしやすいよう図や動画等、視覚教材が有効である
- ・講義形式だけでなく、演習による実体験は学生の理解を深める学修になっている
- ・授業回ごとのリアクションペーパーに記載された要望について、速やかに対応することで学生の満足度が上がり、学習意欲の向上につながると考える
- ・授業中の質問や授業後の質問など、教員と学生との間でコミュニケーションを図ることが、より良い学修につながっている
- ・購入した教科書を効果的に活用することと、理解を助ける授業資料が果的な教材になっている
- ・教員間の指導の差や、情報共有不足などに対して、学生が不満を感じているため、担当教員間での事前打ち合わせを密にしておくことが必要である。
- ・グループワークでの評価に関する基準等、学生が納得できるものを検討する必要がある
- ・課題を前向きに実施している学生がいる一方で、課題の量や提出期限を負担に感じている学生がいることから、課題内容や量を検討することと、負担に感じている学生へのサポートが必要である
- ・授業中に他科目の課題をすることについて、課題を出す教員が問題という意見があることから、自分の非を正当化する学生もいることを念頭に、学生の課題負担を理解した対応が必要である

以上

1. 2022年度、前期・後期授業改善アンケート結果

学科平均を基準とした「大学平均」「前回(2021年)平均」との差を、下記の表にまとめた。

2022年度の「学科」と「大学平均」の平均値の差、2022年度の「学科」と「2021年(前年度)」との平均値の差は、前期・後期ともに「学科」が上回る項目が多かった。前年度は、「大学平均」より低かったのが前期6項目、後期1項目あったことから、全体的な改善があったと評価できる。

一方、2022年度「学科」と「2021年(前年度)」との平均値の差で、2022年度の今回が低かったのは、「項目2(課題提出)」「項目4(予習・復習)」である。前期の「項目4」、後期の「項目2」は、前年度の2022年も2021年との比較で低かったことから、評価の低さが進行している。これらは学生の学修状況に関する項目であり、学生の状況に沿った教育が課題となる。

【学科平均を基準とした 「大学平均」「2021年(前年度)平均」との差】		2022年度<前期>			2022年度<後期>		
		2022年 学科	2022年 大学	2021年 学科	2022年 学科	2022年 大学	2021年 学科
1	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。	-	-	-	-	-	-
2	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。	4.83	-0.02	-0.09	4.80	0.01	-0.04
3	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。	4.31	0.16	0.11	4.34	0.15	0.14
4	1回の授業につき、予習・復習を平均してどのくらいしましたか。	2.49	0.27	-0.06	2.59	0.34	0.09
5	この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。	-	-	-	-	-	-
6	この授業の難易度はどうでしたか。	-	-	-	-	-	-
7	この授業の進行速度は適切でしたか。	-	-	-	-	-	-
8	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。	4.11	0.11	0.14	4.13	0.08	0.07
9	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。	4.15	0.08	0.08	4.17	0.07	0.11
10	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。	4.24	0.11	0.16	4.26	0.10	0.12
11	各回の提出課題の量はどうでしたか。	-	-	-	-	-	-
12	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	4.28	0.05	0.14	4.30	0.05	0.03
13	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。	4.11	0.11	0.18	4.17	0.13	0.11
14	この授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。	4.02	0.12	0.19	4.10	0.12	0.18
15	この授業の内容は興味深いものでしたか。	4.22	0.11	0.12	4.20	0.06	0.05
16	この授業の総合評価を5段階で評価してください。	4.26	0.09	0.17	4.25	0.07	0.11
17	この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。	-	-	-	-	-	-
			+10項目 -1項目	+9項目 -2項目		+11項目 -0項目	+10項目 -1項目

 差が、+0.1P以上 差が、-0.1P以上
 差が、+0.09P以下 差が、-0.09P以下

2. 今後の課題

医療福祉学科では、FD活動における「学修支援PDCAサイクル」の中で、「低学力や学習習慣が身につけていない学生、学力二極化への対応」を挙げて取り組んでいる。授業アンケートで学生の学修状況に関する「項目2」「項目4」は、上記課題に関連すると考える。これらを踏まえ、1年次初年次教育として位置づけた必修3科目では、下記の取り組みを実施することを課題とする。

- ・ 授業内容・授業方法を検討し、共同担当教員が同じ指導ができるような授業計画を作成。
- ・ 共同担当教員が分担して、提出された課題に対するフィードバックを行う。

学年全体としては、学生の資格取得コースによっては複数の課題が重なって苦勞している学生もいれば、そうでない学生もいる。課題が予習・復習の何と関連するかを明確にして提示するとともに、提出された課題に対する教員からのフィードバックが引き続き必要である。

令和4年度 授業改善アンケート振り返り

【全体】

(回答率について)

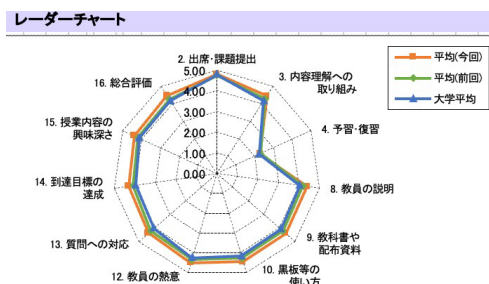
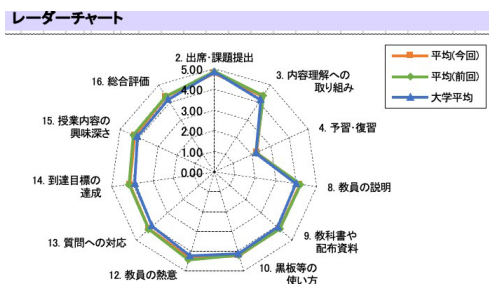
令和4年度実施の結果、回答率平均は前期：43.1%（47科目）、後期：45.1%（52科目）であった。依然として低回答率の科目が多く、5割未満の科目の占める割合は前期：55%、後期：52%、2割未満は前期：36%、後期：23%であった。回答率の高低と教員の属人的な依存性は低く、授業形態やアンケート依頼方法の違いによるものが大きく影響を与えたと考える。一方で評価と回答率に関連性は認められなかった。回答率が同程度に低くても、高低いずれの評価も存在した。そのため授業評価の高低と回答率には相関はないのではないかと推測する。

(項目別回答分布について)

項目別回答分布（レーダーチャート）を見ると、数値が挙がっている11項目において前回との比較で

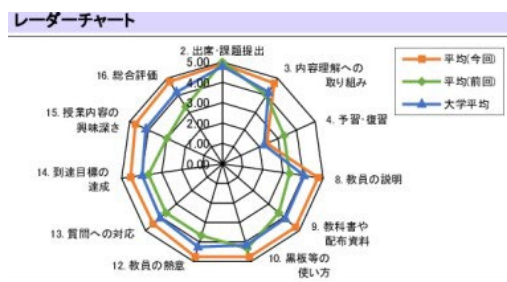
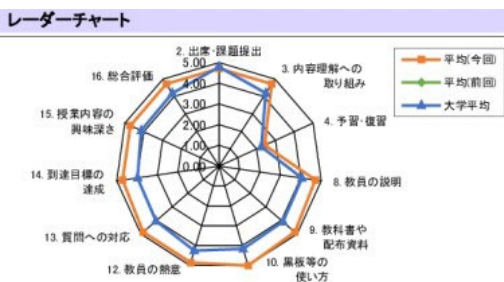
- ・ 前期平均：-0.04
- ・ 後期平均：+0.15

であった。この結果から、前期は8項目で大学平均を上回っているものの、自学科での比較では前回（R3年度）とほぼ同等、後期は改善したといえる。特に後期は1項目（予習・復習）以外のすべてで改善し、その改善幅は0.1後半、中には0.2以上の大幅な改善（到達目標達成、総合評価）を得た項目があった。「予習・復習」については例年、2.0近傍で変化がないが、これは授業で課題（例：次回授業で使用するための提出物（模擬授業用の指導案、日誌のサンプル等）の作成）を課しても学生が自宅で行う「予習・復習」と捉えていない、あるいは実際に自宅では行っていない（授業当日中に帰宅前に学内で済ませる、提出日当日に学内で友人から書き写す等）ためと考えられる。



前期後期

このことはレーダーチャートを見ると一目瞭然である。科目別に見ていくと、総じて座学（講義）は前回同様か低下、実技系（音楽・図工・体育）科目、及び実践を含む演習科目が大幅増加か高評価を維持しており、このことから前期に実技系科目が7科目（内1科目は回答ゼロ）、後期は12科目（内回答数1〜2が2科目）であることから、実技系科目の改善や高評価が後期全体を改善方向へ大きく引っ張ったといえる。



高評価の実技系科目の一例実践を含む演習科目の例

このような科目では授業の進め方、説明方法、教材の工夫にきめ細かな配慮・工夫がなされており、また知

識の教授だけではなく、それを実践に結びつけること、一人一人の理解度に注目しながら授業を進行していることが要因といえる。しかし、同じ手法で授業を行っても、学年によるクラスの学力あるいは取り組み姿勢の差、これに関連して小幼コースと幼保コースの（授業内容やクラスの）違い、総じてクラスの雰囲気でも評価が変わることが確認された。

前期中に今年度の学生の個性や集団内の関係性を改めて把握し直したことで（当学科は少人数であるため、学科会議等において学生ひとりひとりの学業の状態、生活態度や友人関係に関して教員間で情報共有をすることができるため）、後期から（2年生以上は前年度までの経験も踏まえ）、さらに個々の学生やクラスに合わせて授業方法を調整・展開することができたのではないかと考える。

【個別の科目から】

- ・配付資料の工夫、グループワークやペアワーク（アクティブラーニング）の積極的な導入、学生主体の調べと発表機会の設定など（一方向で受け身型の授業にならないよう工夫した点）が評価された。
- ・意欲や学力が低め学生であっても理解できる授業内容及び授業方法を工夫していく必要がある。
- ・実習事前指導：必要な知識（日誌を書くにあたり子どもの実態を捉える視点、日誌の記入方法、倫理綱領、障害者の支援方法など）についてきめ細かく個人ワークを行いながら確認した。
- ・一方的な講義とならないように学生の進捗状況に応じてフィードバックを行った。
- ・全授業の最初に授業を受けるマナーを確認してからはじめた。
- ・前回のフィードバックを必ず行ってから本日の授業展開を確認するようにした。
- ・講義後に質問できる時間を確保し、学生の理解を促す工夫を行った。

【個別指導から】

- ・（理論等）口頭での説明で集中力が切れてしまう学生がいるので、睡眠時間確保やアルバイト量等について本人と面談の機会を設けるなどの個々に対するサポートを手厚くした。

【その他】

- ・何のためにこの科目を学んでいるのか、という長期的な視点が持ちにくい学生がおり、卒業生からのアドバイスなど、教員以外からその科目の重要性について伝えてもらう機会を作るなどが必要である。
- ・字が整わない、直線を引くことが難しく図が書けない、簡単な漢字が書けない、言葉による指示が通りにくい、文章理解が困難、他者と適切な距離感でコミュニケーションをとれない、といった、何らかの配慮を要とする学生が年々増加しており、支援センターと連携しつつ、本人の困り感を共有して授業内でサポートしていく体制が必要不可欠である。
- ・マスク着用について学生の態様が様々なため、教員授業間で共通理解が必要である。
- ・咳によって集中できない学生が認められた。授業中の咳エチケットについて検討する必要がある。

2022 年度 授業改善アンケート結果に対する学科の振り返り

	【2022 年度前期】			【2022 年度後期】		
	大学平均	前回平均	今回平均	大学平均	前回平均	今回平均
出席・課題提出	4.85	4.90	4.82	4.79	4.86	4.79
内容理解への取り組み	4.15	4.33	4.32	4.19	4.16	4.28
予習・復習	2.22	2.07	2.11	2.25	1.88	1.96
教員の説明	4.00	4.00	4.03	4.05	3.83	3.99
教科書や配布資料	4.07	4.04	4.05	4.10	3.91	4.06
黒板等の使い方	4.13	4.06	4.12	4.16	3.97	4.13
教員の熱意	4.23	4.21	4.18	4.25	4.04	4.24
質問への対応	4.00	3.95	3.96	4.04	3.83	4.05
到達目標の達成	3.90	4.05	4.03	3.98	3.91	4.08
授業内容の興味深さ	4.11	4.16	4.13	4.14	3.98	4.14
総合評価	4.17	4.14	4.16	4.18	4.01	4.16

1. 2022 年度学科と大学の平均値の比較

2022 年度の学科と大学の平均値を比較すると、3.90～4.85 の間で数値の分布傾向は同じであった。特に予習・復習は低い値で同様の分布傾向であった。設問ごとの平均値の高低で見ると、2022 年度前期において学科の平均値の方が高かった設問は「内容理解への取り組み」（学科 4.32、大学 4.15）と「到達目標の達成」（学科 4.03、大学 3.90）であった。2022 年度後期において学科の平均値の方が高かった設問は「到達目標の達成」（学科 4.08、大学 3.98）であった。学科の平均値の方が大学の平均値より大幅に低い設問はなかった。これらの結果は、学生が授業内容を理解するために積極的に取り組んだこと、到達目標を十分に達成できたことが評価されると思われる。

2. 2022 年度と 2021 年度の学科の平均値の比較

前期においては大きな差が見られないが、後期においては「出席・課題提出」、「予習・復習」以外の 9 設問が 2022 年度の方が 2021 年度より高かった。この理由については、数値だけでは予測しにくいので、学科として今後はその要因を検討していく必要があると思われる。また、2022 年度と 2021 年度とも「予習・復習」の平均値が低く、学生の予習・復習に費やす時間に改善は見られなかった。

3. 今後の課題

「予習・復習」の時間が少ないことについて改善していく必要がある。この時間の分布傾向を見ると、3 時間以上が 2.6%、2 時間が 6.3%、1 時間が 23.2%、30 分以下が 35.1%、全くしていないが 32.8%であり、30 分以下や全くしていないを合わせると 67.9%にもなり、6 割

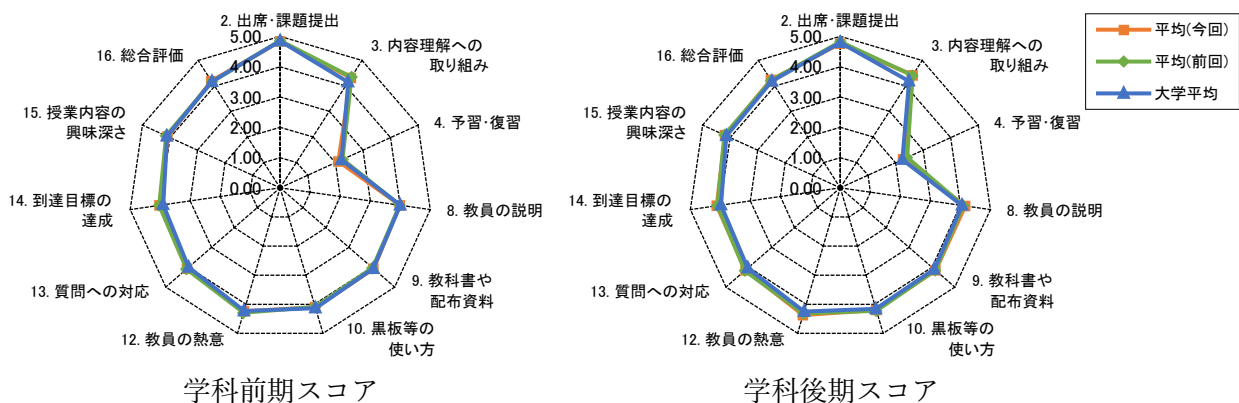
以上がほとんど予習・復習をしていない状況である。特に演習、実技科目や実習指導の授業の準備等に予習・復習の時間を当てるなどの工夫が必要である。また、後期の設問の方が前年度より高い要因を分析して授業改善につなげていく方策を検討していく必要があると思われる。

2022 年度授業改善アンケート結果のまとめ

1. 概況

2022 年度前期および後期のアンケート項目について、学校教育学科の平均値と大学平均値を比較したレーダーチャートは以下のとおりである。

チャートの形状からは、学科と大学の平均値に大きな違いは見られず、同じような回答傾向であることがわかる。また、チャートの形状で目立つ点は、項目4の予習・復習（質問「1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか」）で大きくスコアを落としている点であるが、これも学科と大学の傾向はほとんど同じであった。



2. 設問ごとの学科と大学のスコアの比較

(1) 学科スコアが大学スコアを上回る項目

学科平均値が大学平均値を 0.15 ポイント以上上回る項目、すなわち大学に比して学科の結果がやや優れていると考えられる項目は前後期両方で 1 項目であった。それは、授業への積極的参加であった。また、0.10 ポイント以上上回る項目は、前後期共通で予復習の時間、授業時間外での対応の適切性、授業目標の達成、であった。なお、ここでは僅差で上回るものは省略する。

これらの項目からは学生の学習意欲が高く、授業の学習成果も高かったと考えられ、受講者、授業者双方の取り組みに一定の評価ができそうである。

- 設問 3 あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。
(前期：大学 4.15／学科 4.32 後期：大学 4.19／学科 4.42)
- 設問 12 この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。
(後期のみ：大学 4.25／学科 4.37)
- 設問 13 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。
(後期のみ：大学 4.04／学科 4.14)
- 設問 14 あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思

いますか。

(前期：大学 3.90／学科 4.02 後期：大学 3.98／学科 4.24)

(2) 学科スコアが大学スコアを下回る項目

一方、学科平均値が大学平均値を下回る項目は以下の通りです。授業の予習・復習（設問 4）では大学平均を学科平均が前期で-0.11 と大きく下回り、後期でも 0.02 とわずかに上回ったにすぎず、授業における予習・復習について検討が必要である。

○設問 4 1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。

(前期のみ：大学 2.22／学科 2.11)

3. 今後の改善に向けて

第 1 に、大学全体の特徴でもあるが予習・復習時間のスコアが低い点について、改善が必要である。同設問の学科の後期における回答数を詳細に見ると、3 時間以上が 8%、2 時間が 7%、1 時間が 23%、30 分以下が 30%、まったくしないが 32%であり、授業外での学習時間に学生によりばらつきが大きく、かつ、その時間が短い学生が多いことがわかる。この点について、学科として授業時間外学習の在り方や指導の仕方を検討する必要がある。

第 2 に、授業としての目標達成ができて一方、教員の説明の仕方や熱意については前期が大学平均程度にとどまっていることに対して、後期では大学平均を上回る結果となった点について、授業科目の前後期での配当も要因として考えられる。カリキュラムや授業の在り方について、学科として検討が必要であると考えられる。

以上

2022 年度・授業改善アンケートの結果に対する改善策(総合教育センター)

【1】授業に対する評価結果と課題

(1) 回答の概要

- 昨年度と同様、全科目の評価はキャンパス間での差異が少なく、全体的な平均と一致している。前期に比べて後期の評価がやや上昇する一方、昨年度の同時期調査に対して若干下降傾向が見られる。注目すべき点として、予習・復習にかかる時間が昨年度よりも全分野で減少している。

(2) 改善すべき課題

- 全体的にアンケート回答率が低く、回答率の改善が求められる。
- 予習・復習の時間は前期と後期を比較して大差がなく、全体として短い傾向にある。

【2】課題に対する改善策

- 回答率が高い科目(例:言語系や情報系科目)から学び、アンケートの実施方法を見直す。具体的には、アンケートの項目を厳選し、学生の負担を軽減する。
- 予習・復習が授業理解度を向上させることを効果的に伝える。また、成績評価に予習・復習の時間を直結させる新たな評価体系の導入を検討する。

【3】その他の改善策

- 多数のアンケートが実施され、「アンケート疲れ」が見られる。これに対応するため、アンケートの項目を厳選し、負担を軽減する。
- 教員からのアンケートに対するフィードバックを学生が実感できない状況を改善する。フィードバックが学生に公開されるまでの時間を短縮し、授業改善に直接つながる方法を探求する。例えば、コメントシートを活用して学生の意見を随時収集し、その情報を授業改善に活かすといった方法を試みる。

2022年度 授業アンケートを受けて

1、全体を受けての総合的見解

教職課程の学習は、教育学、心理学、児童福祉分野、および、各教科等、初めて学ぶ分野であるとともに、多岐にわたるため、教員の真摯な教材研究、丁寧な授業、学生対応が必要となる。その点で、質問への対応については、両キャンパスおおむね好評価である。ただし、そこに関わる熱意への評価については、各教員間ばらつきがある。その点においては、一概には言えないが、教員の真摯な教材研究については、研究活動含めて、みな毎年成果を挙げているため、それらを学生と共有するなどし、学びの奥深さを感じられるようにしたい。

2、評価された点

上記に記載した通り、センター教員は、研究活動含めて真摯に取り組んでいるため、配布資料等への評価は良かった。また、課題提出や出席率等もよい数値である。これら踏まえ、学生の意欲を、学びの充実感と力量形成につなげられるよう取り組んでいきたい。

3、課題について

授業への積極的な参加については、学生の主体性、および、そこから生まれる協働的な学びといった教員になる上で形成しておきたい力量形成につながるものであり、大切にしたい。大学平均が全ての指標ではないが、千住前期のみ大学平均を下回っているため、新入生含め、各学年のスタートとなる4・5月の学習の進め方を工夫し、改善をはかりたい。千住後期、東京西前後期は、積極的参加については大学平均を上回っていたが、さらに高い数値を目指したい。

以上

<基礎医学系科目（解剖学・生理学など）>

例年同様に、多くの科目で難易度が『やや難しい』～『とても難しい』を選択した学生が多く、特に解剖学では学科・教員に関係なく7割以上の学生が該当していた。しかしながら、授業の進行速度は『速すぎる』と感じた学生が少数いたものの、『やや速い』～『適切』と感じていた学生が多く、科目自体の内容の難しさを感じていると考えられる。予習復習にかかる時間は全学平均と比較すると多かったが、特に頻回のレポートを課している科目では1～3時間以上と回答した学生が9割を占めるものもあった。また、学生自身が難しいと感じながらも、将来的に大切な科目であると認識し努力する姿勢が見られるようなコメントが数多く見られた。基礎医学系科目は国家試験において1科目での出題数が圧倒的に多く範囲も広い上に、初見の専門用語が1回の授業で100や200を超えることは当たり前であり、膨大な量の知識が求められる。そのため、専門用語の解説を丁寧に行って拒否感を減らす、予習復習を前提としたレポートや小テストを用いて学生の理解度を都度確認するなどの授業の改善を重ねてきており、学生の授業以外の学習に対する姿勢の改善にも繋がってきていると考えられる。また、医療従事者になる上で各科目間でのつながりを理解することは非常に大切であり、最も楽しく感じられる時間でもあるため、今後も継続して授業内容の進行を各科目の教員間で共有し、臨床医学系科目に繋がるような授業を展開していきたい。

<臨床医学系科目（内科学・外科学など）>

臨床医学系科目は学生にとって未知の世界に急に足を踏み入れるような科目であるため、まずは臨床（医療）の世界のイメージを持ってもらい、平易な言葉や説明を使うことを心がけて授業を行うよう改善を重ねている。これまでは授業が『やや難しい』と感じる学生が多い傾向にあったが、該当年度では『やや難しい』～『適切』と感じる授業を多くの科目で展開できてきているようであった。また、進行速度についても『適切』と感じられる授業が増えており、授業の理解度は上がっている可能性があると考えられた。しかしながら、難易度や進行速度が『適切』と感じる科目では予習復習にかかる時間が減少する傾向にあり、授業で理解した以上の内容を積極的に勉強してみようと思うような授業外の学習には繋がらなかったことが残念である。臨床医学系科目は基礎医学系科目を十分に習得していることが前提であるため、今後も継続して基礎医学系科目の内容の復習も含めながら授業を行い、授業以外での学習に繋がるよう促していきたい。

<まとめ（学生の皆さんへ）>

学生の皆さんが国家資格を取得するために習得すべき内容が決まっている中で、ぎりぎりまで難易度を下げて講義をしています。毎年、より分かりやすくなるよう視覚的な情報を増やしたり、平易な言葉で説明したりする等、改善を続けていますが、上位学年であれば下位学年で習得すべき内容をしっかり勉強できていないと、理解はかなり困難になります。1回の授業内容も他の科目に比べて膨大になることも多いため、引き続き最低限のレベルを保

ちつつも簡潔に理解しやすい講義になるよう、改善していきたいと思います。それでも、学生の皆さん自身が予習復習等の授業外での学習を行うこと、授業を集中して聞き、できるだけ授業内に理解すること、授業内で理解できなかったことは放置しないでできるだけ早めに質問し解決すること、を心がけた姿勢を取らない限りは、教員が毎回毎年授業の改善を行ったとしても、効果的な授業になることはありません。お互いに効果的な時間を過ごせるよう、一緒に改善していきましょう。また、授業内に理解できたと感じる場合は、授業の内容を超えた、更に難しい内容も意欲的に学習することをおすすめします。医学教育センターには皆さんの取得予定の国家資格とは異なる専門資格を持つ教員が多くいます。臨床に出た後には、分野の異なる専門職に気軽に質問できる環境は多くありません。大学在籍中に多くの疑問を持ち、積極的に質問する姿勢が取れるよう、心がけていきましょう。